

1 はじめに

滋賀大学社会連携研究センター センター長 石井 良一

今年度からセンター長を拝命致しました。私が2012年に本学に着任して7年目を迎えますが、この間本学を取り巻く環境も大きく変化しました。順調に成長をしてきた滋賀県も2014年に48年ぶりに人口減少に転じ、将来も継続的に減少する見込みです。ものづくり県を標榜している滋賀県ですが、製造業の従業者数は近年継続的に減少しています。外国人観光客数は2015年より飛躍的に増加しています。一方、我が国全体で大学改革が進められる中、本学では2017年4月に68年ぶりに新学部「データサイエンス学部」が誕生し、文理融合大学としての第1歩を歩み始めました。2019年4月には「データサイエンス大学院」も設立する予定です。

こうした動きの中で、大学の社会貢献のための結節点である「社会連携研究センター」も大きな転換点を迎えようとしています。本センター報で紹介しているように、これまでも中小企業の海外展開支援、アグリビジネスの振興、地域活性化プランナー学び直し塾、自治体の公民連携の推進などの独自の活動を進めてきましたが、文理融合大学としての滋賀大学の社会連携の橋頭保として機能強化を図っていきたいと考えています。具体的には、「滋賀大学の知的シーズを活かし、地域との連携を通して、新事業創出、地域活性化を牽引する」を理念に、「人材育成」、「事業創造・地域創生」、「研究・コンサルティング」を活動の三本柱として、企業や自治体、市民の方々と協働し、活動を通じて社会に貢献していきたいと考えています。このために、既存活動の深化を図るとともに、新しく「社会連携コーディネーター制度」を構築し、社会との連携を強化する予定です。

社会連携研究センターは、これからも大学と地域・社会をつなぐ窓口としての役割を果たしつつ、社会への貢献を積極的に推進していきます。ぜひどんなことでも気軽に相談して頂ければと思います。